

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	地域に向け、工作教室や出張教室等を通して、利用者の活動を発信しています。
	内容	利用者は、作業活動や創作活動でモノづくりを行っていることから、それらの活動を地域に向け発信しています。陶芸市を開催し、作品の販売と陶芸体験を実施したり、地域の学校に出向き利用者が講師となり工作教室を開催しています。さらに、近隣の学校からのボランティアセミナーの講師派遣の要請を受け、利用者が日常の困っていることなどを話すことで障がい理解の促進と利用者の自信や意欲に繋がっています。また、日常活動に多くのボランティアの参加や実習生の受け入れを行うなど、地域に開かれた施設運営を行っている点が評価されます。
2	タイトル	多機能事業所の特色を生かし利用者のニーズに即したサービス提供を行っています
	内容	多機能事業所として、生活介護、就労移行支援、就労継続支援B型サービスを本園・分場2カ所で開催しています。本園は、身体障がい者を対象にしており、分場は、身体・知的・精神の3障がいに加えて高次脳機能障害者が対象となっています。本園では、生活介護を主に就労支援も行っているが、分場では就労に特化しており、利用者は個々の障がいの状況や希望によりサービスを選択して利用しています。また、就労継続B型のサービスを受けていた利用者が、一般就労を希望して就労移行支援に移るなど、同一事業所内で継続したサービスが受けられています。
3	タイトル	地域の関係機関が連携したネットワークの構築に積極的に参画しています。
	内容	自立支援協議会、区内施設長会議、支援ネットワーク、高次脳機能障害連絡会に参画し、地域機関と今後の課題やリスクマネジメントに関する意見交換に取り組んでいます。自立支援協議会のエリア部会では、「地域の課題の選出」、「地域の現状・課題の情報共有と情報発信」、「地域課題の分析・解決」など、また支援ネットワークでは、事例検討に取り組んでいます。地域関係機関が連携し、情報の共有及び共同で取り組むための障害者を支えるネットワークの構築に、率先して役割を果たしています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	多機能事業所として、本園と分場で支援方針や記録の管理等の一体化を図ることが望めます
	内容	利用者の支援に関する記録や会議記録など本園と分場それぞれの方法を使用している事が推測されます。以前は異なる事業所として運営されていた経緯は理解できますが、多機能事業所として一体化して運営している以上は、双方で検討し合い、事業所として統一した記録管理の方法を確立することが望めます。さらに、利用者間で本園と分場が同一事業所であるとの感覚や一体感が希薄であると推測されます。行事や作業など連携を取り、協働できることを構築することに期待します。
2	タイトル	職員一人ひとりの能力向上に向けた「個人別育成計画の作成」が望めます
	内容	職員の質がそのまま利用者から見た事業所の評価と成り得るので、職員の質の向上は重要な課題として捉え、年間研修計画を策定し、事業運営に向けた事業所内外研修を行っています。しかし、職員一人ひとりのキャリアや能力に違いがあり、能力向上に対する考えを面談で把握し、人事評価の仕事基準書(アセスメント・モニタリング表)と教育制度との連動や研修後の成果の確認を行うことで、職員一人ひとりの能力向上に関する課題や目標を示し、職員一人ひとり質の向上に向けた「個人別育成計画の作成」が望めます。
3	タイトル	職員の定着を図る、やる気の向上についての幅広い視点での要因分析が望めます。
	内容	事業法人内で、事業の特性を踏まえた適材適所の人員配置をするために人事異動を行っています。職員や利用者・家族等には、退職や人事異動が多く安定させてほしいとの意見もあり、人事マネジメントにおける適切な対応が望めます。やる気と働きがいの取り組み課題として、個人別育成計画の必要性、職員のモチベーションの維持向上など、幅広い視点での要因分析が望めます。個別面談を増やすなどで、職員の成長につながる要望や意見を聞き、管理職とのコミュニケーション機会を増やすことで、言いやすい職場環境作りへの取り組みが求められます。